

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272700998		
法人名	有限会社 ダイワサービス		
事業所名	グループホーム 銀杏苑		
所在地	青森県三戸郡五戸町字銀杏木1-45		
自己評価作成日	平成26年11月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>今まで日常生活で行ってきたことが、継続できるよう、また、できる事は奪わないように努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは静かな農業地の小高い場所にあり、眼下に田畑が広がり、自然の景観に季節が感じられ、落ち着きと安心感がある。日当たりも良く、時間帯で床暖房の温もりで過せる快適さもある。 職員の明朗快活な様子は、理念の唱和、職員心得の日々の見つめ等、意識姿勢の共有化・浸透のための取組みに力を注いでいる成果と伺われ、全職員で実践に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に見える所に理念を掲示し、時には朝礼等で唱和して共有し、実践につなげている。	地域に貢献したいという思いで設立されたホームであり、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。また、毎日の朝礼での理念の唱和や職員心得浸透に向けた取り組み等、全職員で理念を共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りには寄付や協賛をいただいている他、見学にも行っている。当苑の祭りには、地域の方々を招待したり、余興等にも参加いただく等、交流を図っている。	近隣に民家が少ない分、付き合いは密であり、除雪や畑作物のお裾分け、緊急時の対応や施設行事への参加等、良好な関係が構築されている。また、周辺の園児・高校生・専門学生のボランティア受入や中学生の職場体験受入等、地域密着の役割に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	苑のお祭りには、専門学校生のボランティアをお願いしたり、余興等にも参加してもらっている。また、中学生の体験学習も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行い、お互いの意見が引き出されるように取り組んでおり、サービスの質の向上につなげている。なお、委員の方々には委嘱状を渡している。また、職員も交代で会議に参加している。	町の介護保険課長・町内会・利用者・家族会・苑長・管理者・職員がメンバーとなり、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、ホームの状況や行事、制度等の説明の他、自己及び外部評価結果や独自のアンケートの報告等を行い、メンバーが意見を話し合いやすいよう工夫しながら、サービスに反映できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には町役場の担当課長にも参加していただいている。また、月1回の地域ケア会議にも参加し、情報交換やアドバイスもいただいている。	役場とは、毎月の地域ケア会議への参加や、ホームの運営推進会議への委員就任という関係もあり、円滑な連携が図られている。また、随時、迅速な助言や情報のやり取り等を行い、日常的に協力体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で話し合ったり、勉強会を開催し、正しく理解するように取り組んでいる。理由がない限り、玄関の施錠を行わないようにしている他、玄関にはセンサーを取り付けている。また、施錠する場合は家族に説明し、同意を得ている。	外部研修への参加や研修報告(内部勉強会)会を行う等により、全職員で理解を深め、身体拘束をしないケアの実践を徹底している。窓以外の一切の施錠は無く、玄関の出入りもセンサーを活用する等、見守りを徹底している他、必要時に備えて、同意書・観察書・解除のマニュアルを整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等において、虐待について勉強会を行ったり、職員間で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している利用者もおり、制度に関する資料も閲覧できるようにしている。必要に応じて家族に説明し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書を用いて説明し、納得いただけるよう心がけている。また、施設内にも掲示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。苦情受付窓口・外部窓口は、契約書にも明記している。	利用者からの意見把握として、利用者の言葉・しぐさ・表情変化等、日々の関わりを重視して取り組んでいる。また、家族からの意見把握としては、意見箱の設置や独自のアンケートの実施の他、運営推進会議で意見の聞き取り等に取り組み、運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議やサービス会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	毎日の朝礼での引き継ぎ報告や、毎月の職員会議・ケア会議が有効的に機能しており、職員は気づきや意見を伝達できる環境にあるため、早期にケアやサービスへと反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の実績に対しては資格手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にできる限り参加できるよう配慮している。また、会議等で発表する機会を設けて、研修内容を職員間で共有し、実践につなげるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の地域ケア会議に出席し、他施設職員との意見交換をしている。地区の協議会の親睦会にも参加し、交流を図っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所するには事前に本人と面談し、不安なことや要望等を聞き、情報収集している。また、施設見学の機会も設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所するには家族と面談し、不安や要望等を聞いて情報収集し、家族の立場や思い、また、意向に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	苑長やケアマネージャー、管理者と入所判定会議を開き、話し合いの上、入所の可否を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝の清掃、食事づくりや盛り付け、また、洗濯物たたみ等、できることを行ってもらっている。また、一緒に菜園の作業も手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ連絡・相談しながらケアを行っている。施設内の行事へ参加を呼びかけたり、また、病院の受診もお願いし、なるべく一緒に過ごす時間を設けていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との面会を自由に行うことができるようにしている。	入居時に把握した馴染みの関係の継続に努めており、知人等の面会者の受入れを歓迎している他、遠隔地の家族等へはホームで仲介して電話をかける等、関係の継続支援に努めている。また、要望がある場合は、馴染みの場所への外出に同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事以外は自由に過ごしており、レクリエーションに合わせて移動したり、気の合う利用者同士で座ったり、共有の場として畳の上に集まって寛ぐ等、利用者同士互いに関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所のための退所が全てであり、以後の相談等にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の声に耳を傾け、本人の思いを汲み取るようにしており、ケア会議で話し合ったり、家族と相談しながら、意向の把握に努めている。	利用者との日々の会話を重視し、思いや意向の把握に役立てている。また、職員間では、ケア会議や利用者個々の随時のケース会議で話し合い、利用者本位の実現に努めている。更に、利用者から1年の抱負を話してもらい、掲示する等、可能な限り、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人や家族と面談し、情報収集をすると共に、他のサービスを受けていた場合は情報提供をいただきながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのケース記録を活用し、利用者の現在の健康状態に合わせた過ごし方ができるように見極め、ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員とケアマネが相談して介護計画を作成し、毎月のケア会議で全職員と話し合っている。また、家族にもケアプランを見ただけ、意見等を聞いている。	毎月、ケア会議を行い、モニタリング状況を報告している。この際に、ケース会議状況や家族からの要望等を報告・検討し、利用者個々の介護計画作成へ役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース会議等を作成し、日々の様子を記録して、月末に評価、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応え、急な外出や送迎に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園の運動会に招かれたり、クリスマス会では訪問していただいている。避難訓練は消防署の参加の下で実施し、安全に暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からかかりつけ医がある場合は定期的に受診している。家族対応の受診時は書面に様子を書き、医師に伝えてもらっている。	かかりつけ医への受診を基本としており、家族による受診が不可能な時は、ホームが同行する支援としている。家族からは毎回、受診状況・結果がホームへ伝達され、共有している。また、ホームからは生活状況提供書を医師へ渡す支援システムを構築している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は現在は不在である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、お互いに情報提供を行っている。入院中は面会を行ったり、看護師から状態を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた対応はしていない。	現在、重度化や終末期の対応はしていない。入居時にホームの方針を説明の上、了承を得ており、施設ケアを超える場合は早期に医師・家族と話し合い、利用者が安心できる生活環境の確保支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時の対応マニュアルを作成している。AEDを常備しており、消防署の参加の下で訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の下、昼・夜間を想定し、防災訓練を行っている。緊急連絡網を作成し、全職員が持っている。	年2回の避難通報消火訓練は、昼夜を想定し、毎回、職員・利用者・消防署立会いで実施している。職員間では、緊急時の連絡体制・利用者避難の判断を徹底している。	施設単体では非常食・物品の備蓄に基準が無く、本部の一括備蓄であるが、非常食・物品の種類や数量を把握し、有事に備えられることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接し方に気をつけ、一人ひとりに合わせた対応を行い、利用者を尊重するよう心がけている。	言葉遣いには特に注意を払っており、親し過ぎず、個々を尊重できるよう職員間で意識して取り組んでおり、不相当と思われる場合には管理者へ伝達し、助言をしている。また、失禁等があれば、さりげない声かけをしている他、ケアについても異性を敬遠する際は、同性職員が対応するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や様子を見ながら声かけを行い、思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調・状態を見極め、状態に合った過ごし方ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びも本人と一緒にいたり、また、本人の自由にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせ、食事の盛り付けや食事づくり(おにぎり)を一緒に行い、食事も刻みやトロミを使用して、各自の希望に合わせて対応している。また、ランチヨマット等を使用し、雰囲気づくりを工夫している。	皆が好む演歌等をBGMにし、職員と共に会話を楽しみながら食卓で食事している。食事の下準備や後片付け、掃除も行う等、自然な家庭の雰囲気がある。また、個々に応じて、苦手な食材は別に加工する等の配慮をし、食事が楽しみとなるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表を利用して、食事量を把握している。また、状態に応じて水分量もチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて、毎食後、歯磨きやうがい等の支援を行っている。夕食後には入れ歯洗浄剤を使用して、消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用し、間隔をみての声かけや、状態をみての誘導を行っている。また、羞恥心に配慮し、失敗しても本人を傷つけないよう声かけに努めている。	排泄記録により個々のパターンを把握しており、事前誘導・声かけに役立っている。観察状況から、布下着(夜間のみのおむつ使用)やリハビリ下着への試み等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んでいただいている他、水分も多く摂ってもらうようにしている。状態によっては受診をして医師に相談し、薬を処方していただくこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間は決めているが、体調や都合によって変更する場合もある。	利用者の希望の変化に応じて、入浴日・時間帯はいつでも対応できる体制にある他、シャワー浴・洗身等の対応もしている。職員は見守りを行い、利用者に入浴を楽しんでいただけるよう会話をし、支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて、離床を促すこともあるが、基本的には自由に行っている。夜間、眠れない利用者には医師に相談し、薬を処方してもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋を閉じており、全員が理解できるようにしている。服用して特変が見られた時は、医師に相談している。(薬剤師に相談することもある)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ、また、台所の手伝いも行っている。菜園畑の草取りや収穫を行ったり、毎日のレクリエーションにも参加していただいている。ドライブも行い、気分転換につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、散歩や外出の機会を作っている。行事に外出を取り入れる等の取り組みもしている。	日常的に買い物等の要望があれば同行している。毎月の行事が外出となるよう計画し、グループ内の大型バスも利用しながら、体調不良時以外は外出機会となるように支援している。また、行事外出の際は事前に家族へ周知し、現地で合流する等して、共に楽しめるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っている。行事や外出、買い物等は支援の下で行っている。月末には、家族にもレシートと一緒に出納帳のコピーを郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員が相手に電話をかけ、会話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の景色の写真を貼ったり、季節に合わせた企画を作成し、貼っている。季節に合わせて、ホールや居間に温・湿度計を設置し、寒暖差や湿度に気を配っている。	ホーム内には行事の写真や自作の作品等が掲示され、生活の様子や楽しさが伝わる。また、日当たりや採光も良く、ホーム内は明るく、適度な室温である他、居室内以外は、職員が常に見渡せるため、安心感が大きい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースもあり、自由に横になったり、冬はこたつを設置して、利用者同士の憩いの場所になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたタンスや、愛用していた物を持ってきていただくようにしている。自身の作品や家族の写真等を貼り、工夫している。	各居室は、個々の好みの装飾や物品持参による配置となっており、好みの歌手ポスターの掲示等の様子から、自分の部屋という落ち着きと愛着を持てるよう工夫している。また、時間帯による日当たりの差を、各室単独の温度管理で補う等の配慮にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない造りになっており、押し車や車椅子、歩行の不安定な利用者の安全にも配慮している。		